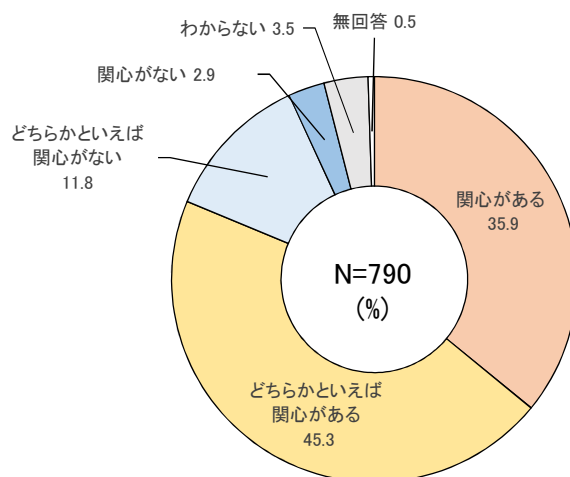


調查結果

1 食品・食品ロスについて

問1 「食育」の目的は、様々な経験を通じ、食に関する知識と職を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることとされています。
あなたは、「食育」に関心がありますか。次の中からあてはまるものを1つだけお選びください。



【全体】

「どちらかといえば関心がある」(45.3%)が最も高く、半数近くに上る。これに「関心がある」(35.9%)、「どちらかといえば関心がない」(11.8%)が続く。

【圏域別】

「関心がある」の割合は道央(39.3%)で最も高く、釧路・根室(37.8%)が続く。「どちらかといえば関心がある」は道北(56.2%)、オホーツク(51.1%)、十勝(50.9%)で半数を超える。

【人口規模別】

人口規模による大きな差異は見られないが、人口規模が大きいほど関心も強い傾向が見られる。札幌市や人口10万人以上の市では、「関心がある」の割合が38%を超える。

【性別】

性別による大きな差異は見られないが、男性に比べ、女性のほうがやや関心が強い傾向が見られる。「関心がある」の割合は、男性(34.3%)に対し、女性(37.6%)と女性が上回る。

【年代別】

「関心がある」の割合は、30～39歳(39.4%)で最も高く、これに40～49歳(38.6%)が次ぐ。18～29歳(31.1%)や50～59歳(32.1%)でやや関心が低いが、その他の年代は30%台後半となっている。

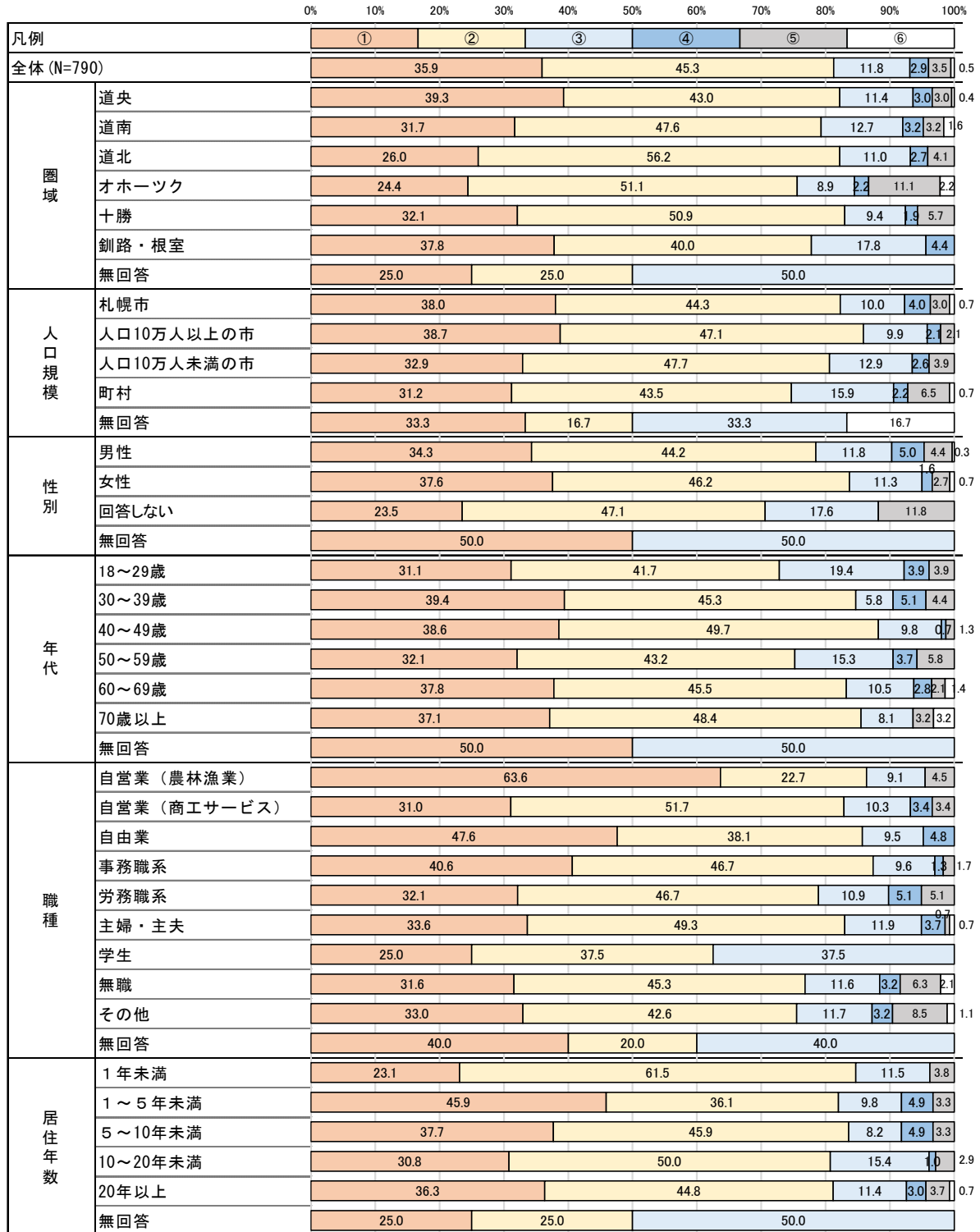
【職種別】

「関心がある」の割合は自営業(農林漁業)(63.6%)で突出して高い。これに自営業(47.6%)が続く。「どちらかといえば関心がある」は自営業(商工サービス)(51.7%)で半数を超える。

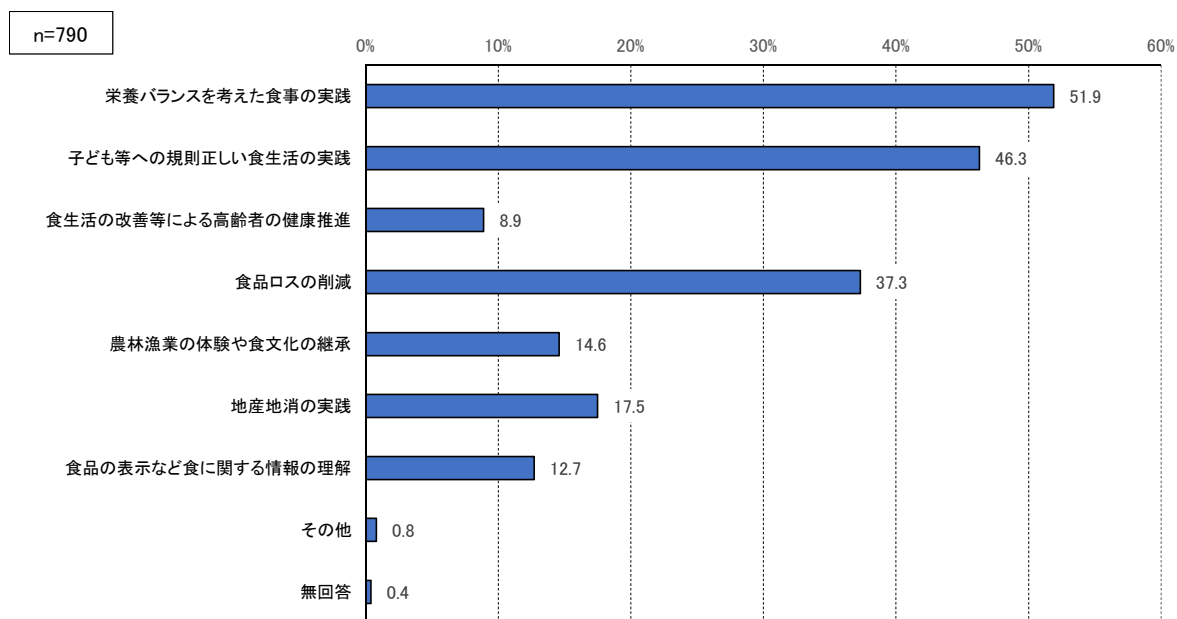
【居住年数別】

「関心がある」の割合は居住年数1～5年未満(45.9%)が最も高く、4割を超える。これに5～10年未満(37.7%)、20年以上(36.3%)が続く。

- ① 関心がある
- ② どちらかといえば関心がある
- ③ どちらかといえば関心がない
- ④ 関心がない
- ⑤ わからない
- ⑥ 無回答



問2 「食育」に対してあなたがイメージする取組はなんですか
次の中からあてはまるものを2つお選びください。



【全体】

「栄養バランスを考えた食事の実践」(51.9%)が最も高く、これに「子ども等への規則正しい食生活の実践」(46.3%)、「食品ロスの削減」(37.3%)が続く。

【圏域別】

オホーツクでは「子ども等への規則正しい食生活の実践」(44.4%)が最も高く、「食品ロスの削減」(37.8%)、「栄養バランスを考えた食事の実践」(33.3%)の順となる。

【人口規模別】

いずれの人口規模でも「栄養バランスを考えた食事の実践」が最も高く、「子ども等への規則正しい食生活の実践」、「食品ロスの削減」の順で続く。

【性別】

男性は「栄養バランスを考えた食事の実践」(42.1%)と「子ども等への規則正しい食生活の実践」(41.7%)が拮抗するが、女性では「栄養バランスを考えた食事の実践」(60.0%)が高くなる。

【年代別】

「栄養バランスを考えた食事の実践」は18～29歳(63.1%)で、「子ども等への規則正しい食生活の実践」は30～39歳(59.9%)で高く、比較的若い年代で「食育」への関心が高いと見られる。

【職種別】

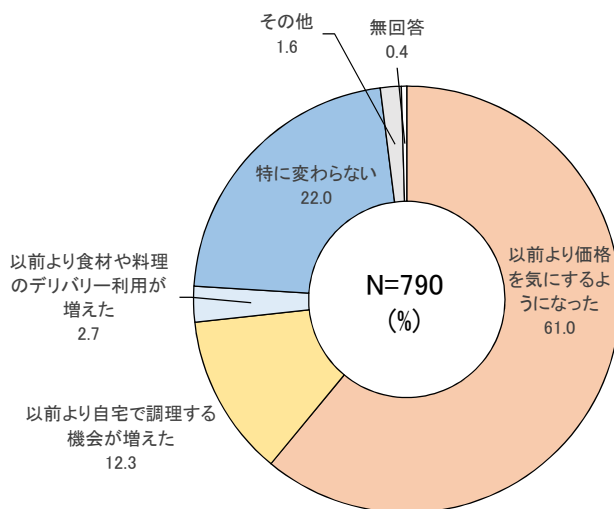
自営業(商工サービス)や自由業では「栄養バランスを考えた食事の実践」がやや低く、「食生活の改善等による高齢者の健康推進」が目立つ。

【居住年数別】

いずれの居住年数でも「栄養バランスを考えた食事の実践」と「子ども等への規則正しい食生活の実践」の割合が高い。これに「食品ロスの削減」が続く。

		選小 べる盛 るリメ ニュー など 量を	き食 るべ よう残 にしを 持ち 帰りが で	ン食 トべ なき だつ たお 客様 にポ イ	け店 を員 するから 食べ きり の声 か	そ の 他	無 回 答
全体 (n=790)		75.6	74.3	25.9	6.7	3.4	0.6
圏 域	道央	75.9	72.8	27.2	7.5	3.7	0.6
	道南	81.0	73.0	31.7	9.5	1.6	0.0
	道北	68.5	78.1	26.0	2.7	4.1	0.0
	オホーツク	80.0	73.3	17.8	2.2	4.4	0.0
	十勝	66.0	84.9	18.9	5.7	0.0	0.0
	釧路・根室	84.4	80.0	22.2	4.4	4.4	0.0
	無回答	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	50.0
人 口 規 模	札幌市	74.7	70.3	26.0	8.0	4.0	1.3
	人口10万人以上の市	80.1	74.9	28.3	8.9	2.6	0.0
	人口10万人未満の市	76.8	75.5	23.9	3.9	3.2	0.0
	町村	69.6	83.3	25.4	3.6	3.6	0.0
	無回答	83.3	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7
性 別	男性	67.3	72.3	28.3	8.4	4.7	0.6
	女性	81.3	75.3	24.4	5.1	2.7	0.7
	回答しない	76.5	88.2	23.5	11.8	0.0	0.0
	無回答	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
年 代	18～29歳	76.7	81.6	25.2	8.7	5.8	0.0
	30～39歳	68.6	75.9	29.2	3.6	3.6	0.7
	40～49歳	66.0	77.1	21.6	6.5	3.9	0.0
	50～59歳	74.2	73.7	24.7	7.9	2.6	1.1
	60～69歳	87.4	67.8	26.6	4.9	2.8	0.7
	70歳以上	88.7	69.4	33.9	9.7	1.6	1.6
	無回答	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
職 種	自営業（農林漁業）	63.6	81.8	18.2	9.1	4.5	0.0
	自営業（商工サービス）	82.8	75.9	10.3	3.4	0.0	0.0
	自由業	61.9	71.4	28.6	4.8	4.8	0.0
	事務職系	72.9	78.2	26.2	5.2	1.3	0.0
	労務職系	75.2	69.3	27.0	10.9	1.5	0.0
	主婦・主夫	82.8	76.9	26.9	4.5	1.5	1.5
	学生	79.2	79.2	37.5	4.2	4.2	0.0
	無職	84.2	71.6	25.3	8.4	4.2	1.1
	その他	68.1	71.3	26.6	6.4	13.8	0.0
	無回答	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0	40.0
居 住 年 数	1年未満	73.1	61.5	26.9	3.8	3.8	0.0
	1～5年未満	73.8	86.9	24.6	9.8	8.2	0.0
	5～10年未満	70.5	65.6	19.7	4.9	6.6	0.0
	10～20年未満	67.3	77.9	25.0	9.6	3.8	1.9
	20年以上	78.1	74.2	27.2	6.0	2.4	0.4
	無回答	75.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0

問3 コロナ禍や食品の価格高騰など食をとりまく環境に変化がありましたが、こうした変化の前と後で食に関するあなたの考えや行動に変化がありましたか。最もあてはまるものを1つお選びください。



【全体】

「以前より価格を気にするようになった」(61.0%)が最も高く、「特に変わらない」(22.0%)、「以前より自宅で調理する機会が増えた」(12.3%)が続く。

【圏域別】

「以前より価格を気にするようになった」の割合は、道南(71.4%)や道北(74.0%)で7割以上と高い。一方、「特に変わらない」は、オホーツクや十勝で3割以上とやや高い結果となった。

【人口規模別】

「以前より価格を気にするようになった」の割合は、人口10万人以上の市(66.5%)で高く、「特に変わらない」の割合は町村(28.3%)で高くなっている。

【性別】

女性で「以前より価格を気にするようになった」(62.7%)が高い一方、男性では「特に変わらない」(25.9%)が高くなっている。「以前より自宅で調理する機会が増えた」などに男女差は見られない。

【年代別】

年代による大きな差異はないが、40代や60代以上で「特に変わらない」の割合が高い。「以前より価格を気にするようになった」はどの年代でも最も高くなっている。

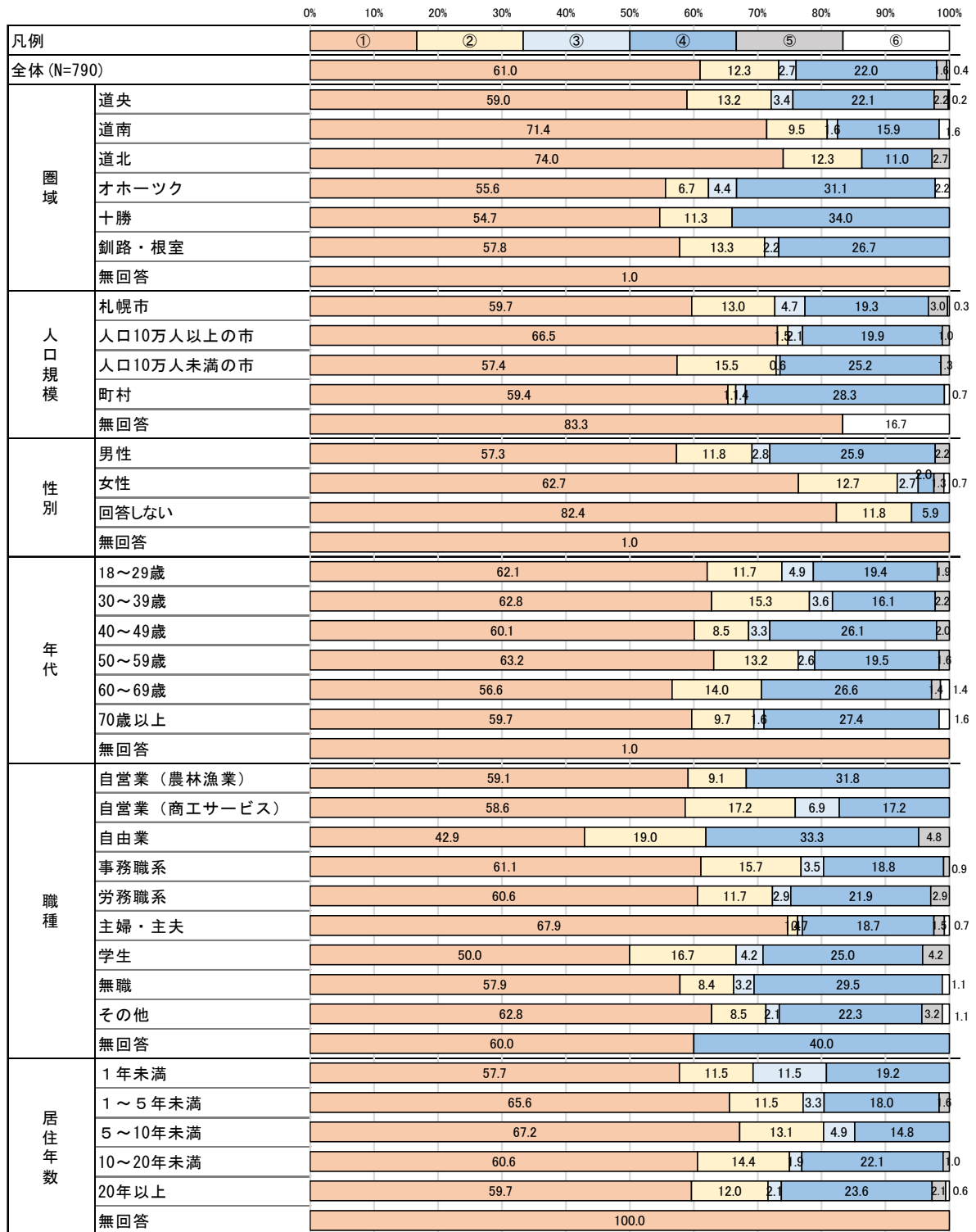
【職種別】

「以前より価格を気にするようになった」の割合は主婦・主夫(67.9%)で最も高い。自由業では「特に変わらない」(33.3%)が高くなっている。

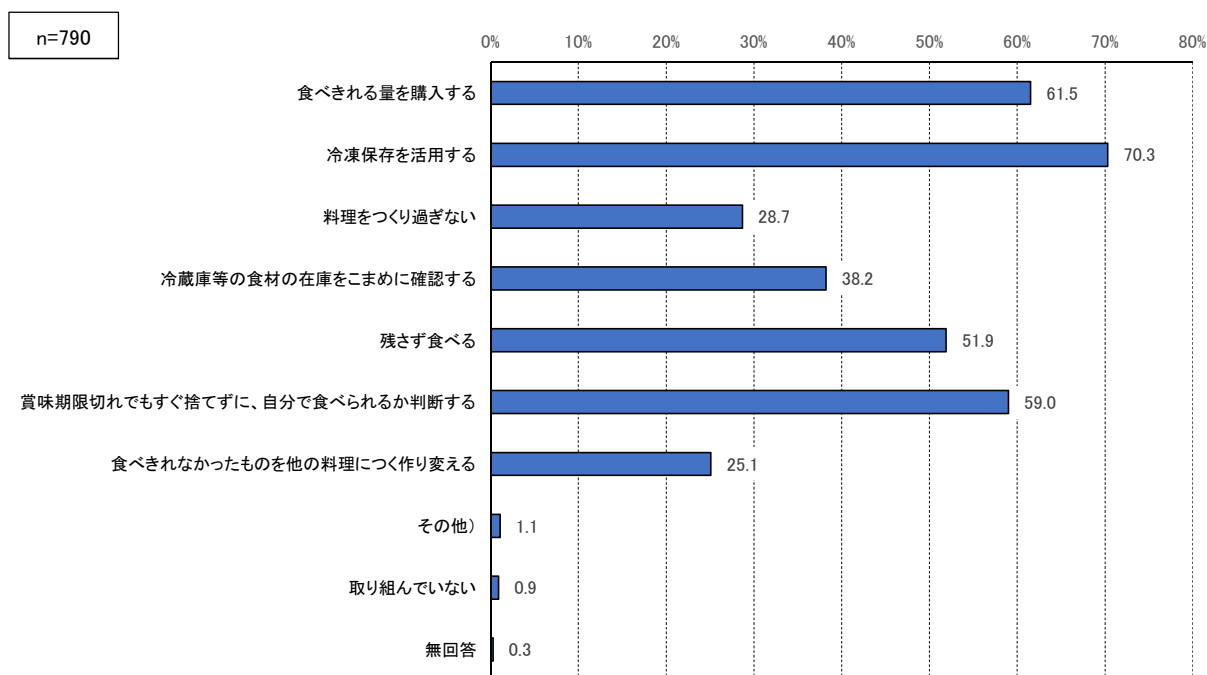
【居住年数別】

居住年数による差異は見られないが、「以前より価格を気にするようになった」の割合は、1～5年未満、5～10年未満で高い。

- ① 以前より価格を気にするようになった
- ② 以前より自宅で調理する機会が増えた
- ③ 以前より食材や料理のデリバリー利用が増えた
- ④ 特に変わらない
- ⑤ その他
- ⑥ 無回答



問4 「食品ロス」とは、本来食べることができるにもかかわらず捨てられてしまう食品のことです。
 あなたが家庭で行っている食品ロス削減の取組について、次の中からあてはまるものを全てお選びください。



【全体】

「冷凍保存を活用する」(70.3%)が最も高く、「食べきれぬ量を購入する」(61.5%)、「賞味期限切れでもすぐ捨てずに、自分で食べられるか判断する」(59.0%)が続く。

【圏域別】

全体結果同様、「冷凍保存を活用する」、「食べきれぬ量を購入する」、「賞味期限切れでもすぐ捨てずに、自分で食べられるか判断する」が上位を占める。

【人口規模別】

札幌市では「冷凍保存を活用する」(72.0%)が、人口10万人以上の市では「賞味期限切れでもすぐ捨てずに、自分で食べられるか判断する」(63.9%)の割合がやや高い。

【性別】

男性に比べ、女性では「冷凍保存を活用する」(73.1%)や、「冷蔵庫等の食材の在庫をこまめに確認する」(44.7%)の割合が高い。

【年代別】

18～29歳では、他の年代と比べて「食べきれぬ量を購入する」(69.9%)が高くなっている。60～69歳では「冷凍保存を利用する」(75.5%)の割合もやや高い。

【職種別】

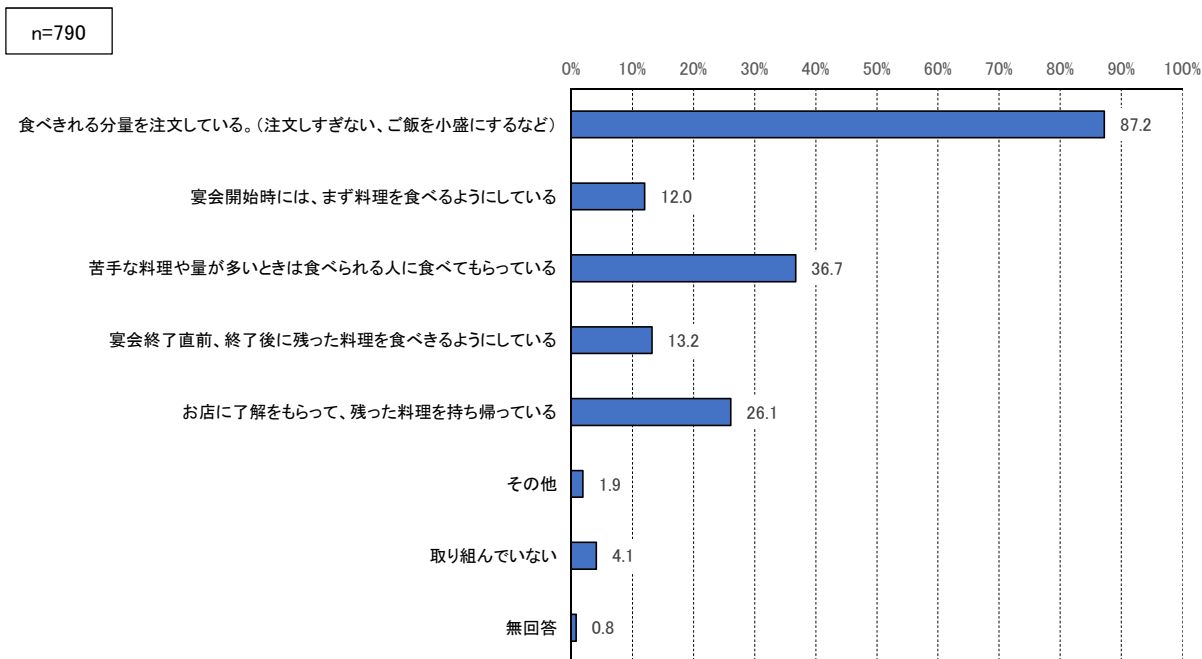
いずれの職種でも「冷凍保存を活用する」と「賞味期限切れでもすぐ捨てずに、自分で食べられるか判断する」が大きい。自営業(農林漁業)や自由業では「食べきれぬ量を購入する」の割合がやや低い。

【居住年数別】

居住年数1年未満、1～5年未満では「食べきれぬ量を購入する」の割合が高くなっている。

		食べきれ る量を購 入する	冷凍保 存を活 用する	料理を つくり 過ぎ ない	冷蔵庫 等の食 材の在 庫をこ まめに 確認す る	残さず 食べる	賞味期 限切れ でもす ぐ捨 てるか 判断す る	他の料 理につ くった ものを 変え る	その他	取り組 んでい ない	無回 答
		(%)									
全体 (n=790)		61.5	70.3	28.7	38.2	51.9	59.0	25.1	1.1	0.9	0.3
圏域	道央	62.1	70.6	29.6	38.5	55.2	60.2	23.5	1.0	1.2	0.4
	道南	54.0	66.7	34.9	39.7	57.1	55.6	25.4	3.2	1.6	0.0
	道北	61.6	71.2	28.8	42.5	34.2	53.4	31.5	0.0	0.0	0.0
	オホーツク	60.0	71.1	28.9	33.3	48.9	60.0	35.6	0.0	0.0	0.0
	十勝	62.3	60.4	13.2	45.3	35.8	62.3	18.9	1.9	0.0	0.0
	釧路・根室	64.4	80.0	28.9	24.4	55.6	53.3	31.1	2.2	0.0	0.0
	無回答	75.0	75.0	25.0	25.0	75.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0
人口規模	札幌市	64.0	72.0	28.7	40.7	55.7	59.3	25.7	1.3	1.0	0.7
	人口10万人以上の市	64.4	71.2	34.0	43.5	57.6	63.9	26.2	1.0	0.5	0.0
	人口10万人未満の市	56.8	70.3	25.2	34.8	45.8	54.8	27.1	0.6	0.6	0.0
	町村	57.2	65.9	25.4	30.4	41.3	55.8	20.3	1.4	1.4	0.0
	無回答	66.7	50.0	33.3	16.7	83.3	66.7	16.7	0.0	0.0	0.0
性別	男性	58.6	65.7	23.7	29.3	53.0	56.7	17.8	0.0	1.6	0.0
	女性	63.3	73.1	32.0	44.7	51.1	60.9	30.0	2.0	0.4	0.4
	回答しない	64.7	76.5	35.3	35.3	47.1	47.1	35.3	0.0	0.0	0.0
	無回答	100.0	100.0	50.0	50.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年代	18～29歳	69.9	66.0	27.2	35.0	62.1	60.2	19.4	1.9	0.0	0.0
	30～39歳	59.9	68.6	19.0	35.8	57.7	55.5	24.1	0.0	1.5	0.7
	40～49歳	59.5	72.5	29.4	39.9	54.2	60.1	25.5	2.6	0.0	0.0
	50～59歳	63.2	67.4	31.6	33.2	57.4	57.9	25.8	0.5	2.1	0.0
	60～69歳	60.8	75.5	33.6	44.8	34.3	59.4	28.0	1.4	0.7	0.0
	70歳以上	51.6	71.0	30.6	45.2	38.7	62.9	27.4	0.0	0.0	1.6
	無回答	100.0	100.0	50.0	50.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
職種	自営業（農林漁業）	45.5	72.7	18.2	18.2	59.1	54.5	22.7	0.0	0.0	0.0
	自営業（商工サービス）	69.0	72.4	24.1	31.0	48.3	69.0	37.9	3.4	0.0	0.0
	自由業	42.9	76.2	19.0	23.8	47.6	52.4	28.6	0.0	0.0	0.0
	事務職系	65.1	70.3	29.7	40.2	56.8	59.0	26.2	1.3	1.3	0.0
	労務職系	54.7	68.6	21.9	32.1	54.7	53.3	16.1	1.5	1.5	0.0
	主婦・主夫	61.9	76.1	40.3	47.0	47.0	62.7	33.6	1.5	0.0	0.7
	学生	75.0	70.8	29.2	33.3	66.7	75.0	20.8	0.0	0.0	0.0
	無職	66.3	67.4	29.5	46.3	46.3	54.7	24.2	1.1	0.0	0.0
	その他	60.6	64.9	25.5	34.0	44.7	61.7	22.3	0.0	2.1	0.0
	無回答	40.0	60.0	20.0	20.0	60.0	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0
居住年数	1年未満	73.1	73.1	23.1	34.6	65.4	65.4	11.5	0.0	0.0	0.0
	1～5年未満	68.9	73.8	32.8	39.3	57.4	50.8	23.0	1.6	0.0	0.0
	5～10年未満	54.1	67.2	23.0	41.0	47.5	60.7	27.9	0.0	3.3	0.0
	10～20年未満	59.6	72.1	31.7	31.7	62.5	51.0	23.1	1.9	1.0	1.0
	20年以上	61.4	69.9	28.5	39.3	48.7	60.9	26.0	1.1	0.7	0.2
	無回答	50.0	50.0	50.0	25.0	100.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0

問5 あなたが外食時に行っている食品ロス削減の取組について、次の中からあてはまるものを全てお選びください。



【全体】

「食べきれる分量を注文している（注文しすぎない、ご飯を小盛りにするなど）」（87.2%）の割合が最も高く、「苦手な料理や量が多いときは食べられる人に食べてもらっている」（36.7%）、「お店に了解をもらって、残った料理を持ち帰っている」（26.1%）が続く。

【圏域別】

どの圏域でも「食べきれる分量を注文している」の割合が最も高いが、オホーツクでは「宴会開始時には、まず料理を食べるようにしている」（24.4%）が大きい。また、オホーツク、十勝では「お店に了解をもらって、残った料理を持ち帰っている」の割合が高い。

【人口規模別】

町村では「お店に了解をもらって、残った料理を持ち帰っている」（35.5%）が他の人口規模に比べ、高い。札幌市では20.7%に留まる。

【性別】

男性に比べ、女性では「苦手な料理や量が多いときは食べられる人に食べてもらっている」（44.2%）が高くなっている。

【年代別】

18～29歳では、「宴会終了直前、終了後に残った料理を食べるようにしている」（20.4%）が高い。また、70歳以上では「お店に了解をもらって、残った料理を持ち帰っている」（35.5%）も高い。

【職種別】

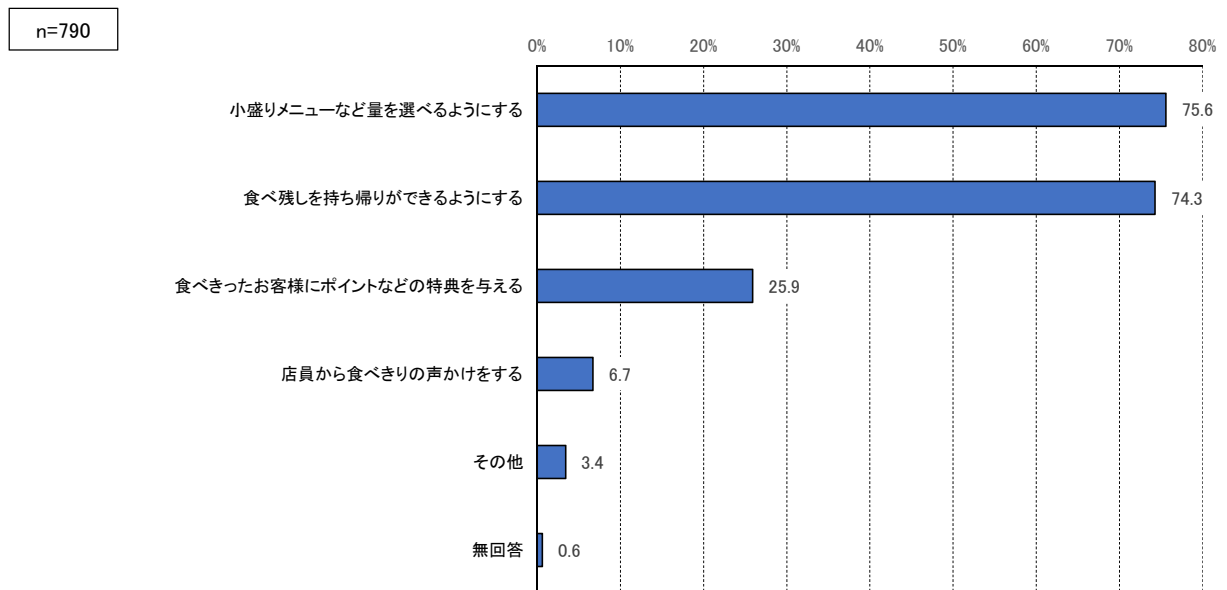
自営業（農林漁業）では「お店に了解をもらって、残った料理を持ち帰っている」（50.0%）が半数に上る。また、学生の全員が「食べきれる分量を注文」（100.0%）としている。

【居住年数別】

居住年数1～5年未満では「宴会開始時には、まず料理を食べるようにしている」（23.0%）が高い。1年未満では「宴会終了直前、終了後に残った料理を食べるようにしている」（23.1%）が高い。

		食べられる分量を注文している（注文しすぎない、ご飯を小盛にするなど）	宴会開始時には、まず料理を食べるようにしている	苦手な料理や量が多いときも食べられている	宴会終了直前、終了後に残った料理を食べるようになっている	宴会終了直前、終了後に残った料理をもち帰っている	お店に了解をもち帰っている	その他	取り組んでいない	無回答
		(%)								
全体 (n=790)		87.2	12.0	36.7	13.2	26.1	1.9	4.1	0.8	
圏域	道央	87.8	11.2	36.3	13.2	25.6	2.2	4.7	0.6	
	道南	85.7	12.7	38.1	9.5	19.0	3.2	4.8	0.0	
	道北	87.7	12.3	35.6	13.7	21.9	0.0	4.1	2.7	
	オホーツク	77.8	24.4	42.2	15.6	40.0	0.0	2.2	0.0	
	十勝	88.7	9.4	37.7	15.1	32.1	1.9	0.0	0.0	
	釧路・根室	93.3	11.1	35.6	11.1	28.9	2.2	0.0	0.0	
	無回答	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	
人口規模	札幌市	88.0	10.3	35.7	12.0	20.7	1.0	5.3	1.0	
	人口10万人以上の市	84.3	11.0	38.7	13.6	27.2	3.1	3.7	0.5	
	人口10万人未満の市	91.6	13.5	38.1	13.5	27.1	1.3	1.9	0.6	
	町村	85.5	15.9	34.1	14.5	35.5	2.9	4.3	0.0	
	無回答	66.7	0.0	50.0	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	
性別	男性	81.6	14.0	26.5	12.8	25.9	1.9	8.1	0.9	
	女性	90.9	10.9	44.2	13.3	25.8	2.0	1.3	0.7	
	回答しない	94.1	5.9	29.4	11.8	41.2	0.0	0.0	0.0	
	無回答	100.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
年代	18～29歳	91.3	14.6	38.8	20.4	22.3	2.9	3.9	0.0	
	30～39歳	84.7	13.1	35.8	14.6	21.2	2.2	5.8	0.7	
	40～49歳	88.9	7.8	32.0	13.7	24.8	0.0	3.9	0.0	
	50～59歳	86.3	11.6	33.7	12.1	30.0	2.1	4.2	1.1	
	60～69歳	86.7	11.9	47.6	9.1	25.9	2.8	3.5	1.4	
	70歳以上	85.5	17.7	30.6	8.1	35.5	1.6	1.6	1.6	
	無回答	100.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
職種	自営業（農林漁業）	68.2	13.6	27.3	9.1	50.0	0.0	13.6	0.0	
	自営業（商工サービス）	82.8	13.8	41.4	10.3	31.0	0.0	0.0	0.0	
	自由業	85.7	4.8	23.8	9.5	19.0	0.0	9.5	0.0	
	事務職系	88.6	10.0	36.7	14.4	27.1	1.3	2.2	0.0	
	労務職系	88.3	12.4	35.0	17.5	29.2	1.5	4.4	0.7	
	主婦・主夫	92.5	14.9	49.3	11.9	26.9	0.0	2.2	0.7	
	学生	100.0	16.7	41.7	25.0	16.7	0.0	0.0	0.0	
	無職	85.3	13.7	31.6	9.5	20.0	5.3	5.3	0.0	
	その他	81.9	10.6	29.8	8.5	22.3	5.3	8.5	1.1	
	無回答	40.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	60.0	
居住年数	1年未満	96.2	7.7	38.5	23.1	19.2	0.0	0.0	0.0	
	1～5年未満	91.8	23.0	29.5	16.4	27.9	4.9	4.9	0.0	
	5～10年未満	85.2	8.2	36.1	16.4	26.2	1.6	1.6	0.0	
	10～20年未満	87.5	9.6	37.5	12.5	18.3	1.0	5.8	1.0	
	20年以上	86.5	12.0	37.5	12.0	27.7	1.9	4.1	0.7	
	無回答	75.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	

問6 飲食店での「食品ロス」を減らすために、飲食店はどのようなことをすると効果的だと思いますか。あてはまるものを3つまでお選びください。



【全体】

「小盛りメニューなど量を選べるようにする」(75.6%)と「食べ残しを持ち帰りができるようにする」(74.3%)が拮抗した。これに「食べきったお客様にポイントなどの特典を与える」(25.9%)が続く。

【圏域別】

釧路・根室では「小盛りメニューなど量を選べるようにする」(84.4%)、十勝では「食べ残しを持ち帰りができるようにする」(84.9%)が他の地域より高い。

【人口規模別】

人口規模による大きな差異は見られない。

【性別】

女性は「小盛りメニューなど量を選べるようにする」(81.3%)が、男性(67.3%)を上回る。

【年代別】

「小盛りメニューなど量を選べるようにする」は、18～29歳を除き概ね年代が上がるにつれ割合が高くなる傾向にある。また、18～29歳で「食べ残しを持ち帰りができるようにする」(81.6%)が高くなっている。

【職種別】

「食べきったお客様にポイントなどの特典を与える」は、自営業(農林漁業)・(商工サービス)ともに低い。労務職系では「店員から食べきりの声掛けをする」(10.9%)が10%を超える。

【居住年数別】

居住年数1年未満では「食べ残しを持ち帰りができるようにする」(61.5%)が、他の居住年数と比較して少ない。

		小盛りメニューなど量を選べるようにする (%)	食べ残しを持ち帰りができるようにする	食べきったお客様にポイントなどの特典を与える	店員から食べきりの声かけをする	その他	無回答
全体 (n=790)		75.6	74.3	25.9	6.7	3.4	0.6
圏域	道央	75.9	72.8	27.2	7.5	3.7	0.6
	道南	81.0	73.0	31.7	9.5	1.6	0.0
	道北	68.5	78.1	26.0	2.7	4.1	0.0
	オホーツク	80.0	73.3	17.8	2.2	4.4	0.0
	十勝	66.0	84.9	18.9	5.7	0.0	0.0
	釧路・根室	84.4	80.0	22.2	4.4	4.4	0.0
	無回答	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	50.0
人口規模	札幌市	74.7	70.3	26.0	8.0	4.0	1.3
	人口10万人以上の市	80.1	74.9	28.3	8.9	2.6	0.0
	人口10万人未満の市	76.8	75.5	23.9	3.9	3.2	0.0
	町村	69.6	83.3	25.4	3.6	3.6	0.0
	無回答	83.3	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7
性別	男性	67.3	72.3	28.3	8.4	4.7	0.6
	女性	81.3	75.3	24.4	5.1	2.7	0.7
	回答しない	76.5	88.2	23.5	11.8	0.0	0.0
	無回答	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
年代	18～29歳	76.7	81.6	25.2	8.7	5.8	0.0
	30～39歳	68.6	75.9	29.2	3.6	3.6	0.7
	40～49歳	66.0	77.1	21.6	6.5	3.9	0.0
	50～59歳	74.2	73.7	24.7	7.9	2.6	1.1
	60～69歳	87.4	67.8	26.6	4.9	2.8	0.7
	70歳以上	88.7	69.4	33.9	9.7	1.6	1.6
	無回答	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
職種	自営業（農林漁業）	63.6	81.8	18.2	9.1	4.5	0.0
	自営業（商工サービス）	82.8	75.9	10.3	3.4	0.0	0.0
	自由業	61.9	71.4	28.6	4.8	4.8	0.0
	事務職系	72.9	78.2	26.2	5.2	1.3	0.0
	労務職系	75.2	69.3	27.0	10.9	1.5	0.0
	主婦・主夫	82.8	76.9	26.9	4.5	1.5	1.5
	学生	79.2	79.2	37.5	4.2	4.2	0.0
	無職	84.2	71.6	25.3	8.4	4.2	1.1
	その他	68.1	71.3	26.6	6.4	13.8	0.0
	無回答	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0	40.0
居住年数	1年未満	73.1	61.5	26.9	3.8	3.8	0.0
	1～5年未満	73.8	86.9	24.6	9.8	8.2	0.0
	5～10年未満	70.5	65.6	19.7	4.9	6.6	0.0
	10～20年未満	67.3	77.9	25.0	9.6	3.8	1.9
	20年以上	78.1	74.2	27.2	6.0	2.4	0.4
	無回答	75.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0

「食育・食品ロスについて」の調査を終えて

食育への関心度については、「関心がある」(35.9%)、または「どちらかといえば関心がある」(45.3%)とする回答は合わせて8割を超えている。食育に対してイメージする取組については、「栄養バランスを考えた食事の実践」(51.9%)と回答した方が最も多く、次いで「子ども等への規則正しい食生活の実践」(46.3%)、「食品ロスの削減」(37.3%)の順に高かった。

コロナ禍や食品の価格高騰など食を取りまく環境変化の前後で食に関する考えや行動の変化があったかについては、「以前より価格を気にするようになった」(61.0%)と回答した方が、すべての圏域、人口規模、性別、年代において、半数以上を占めている。

家庭で行っている食品ロス削減の取組については、「冷凍保存を活用する」(70.3%)、「食べきれぬ量を購入する」(61.5%)、「賞味期限切れでもすぐ捨てずに、自分で食べられるか判断する」(59.0%)、「残さず食べる」(51.9%)の順に多く、外食時に行っている食品ロス削減の取組については、「食べきれぬ分量を注文している」との回答が87.2%であった一方、「取り組んでいない」、「無回答」を合わせて、5%未満と低かった。

今回の調査結果から、8割以上の方が食育に関心をもっていて、食育に対して栄養バランスや子どもの食生活、食品ロスの削減というイメージをもっていることがわかったほか、多くの方が以前より食品の価格に敏感になっていることが把握された。

また、食品ロス削減については、多くの方が何らかの取組を行っている中で、更なる食品ロス削減を図るには、取組の徹底に向けた工夫が必要と考えられる。

今回の調査結果は、今年度策定する「第5次北海道食育推進計画」に反映させるとともに、食育や食品ロス削減の効果的な推進に活用していく。

(農政部食の安全推進局食品政策課)

